



【No.36】45度線分析の枠組みで考える。ある国のマクロ経済が、次のように示されているとする。

$$Y=C+I+G$$

$$C=20+0.6(Y-T)$$

$$T=0.2Y$$

Y：国民所得、C：消費、I：投資、G：政府支出、T：税金

ここで、 $I=100$ 、 $G=140$ であるとする。

いま、この経済のデフレ・ギャップが 26 であるとき、現在の均衡国民所得は、完全雇用国民所得をどれだけ下回っているか。

- 1 30
- 2 40
- 3 50
- 4 60
- 5 70

正答 3

マクロ p.27

デフレ・ギャップが 26 であるということは、それを増やせば完全雇用を実現できるということです。したがって政府支出を 26 増やしたときの国民所得の変化 ΔY を求めましょう。政府支出乗数より、政府支出を 26 増やしたときの国民所得の増加を求めると

$$\Delta Y = \frac{1}{1-0.6(1-0.2)} \times 26 = \frac{1}{0.52} \times 26 = 50$$

$\Delta Y=50$ となります。つまり、現在より政府支出を 26 増やすと、国民所得は 50 増えて完全雇用になるというわけですから、現在の国民所得は完全雇用国民所得水準を 50 下回っているということになります。

よって、正答は 3 です。

2018 国家一般職_マクロ経済学

【No.37】ある国のマクロ経済が、次のように示されるとする。

$$Y=C+I+G$$

$$C = 30 + \frac{3}{5}(Y - T)$$

$$I=20-2r$$

$$\frac{M}{P} = 180 + \frac{Y}{2} - 5r$$

Y：国民所得、C：消費、I：投資、G：政府支出、T：定額税、r：利子率、M：名目貨幣供給量、P：物価水準

ここで、P=1、M=200 であるとする。均衡財政を保ちつつ、政府支出を 30 増加させたときの国民所得の増加分はいくらか。

1 10

2 20

3 30

4 40

5 50

正答 2

マクロ p.94

変化分の式で解きます。

LM 曲線の式を変化分の式にすると

$$0 = \frac{\Delta Y}{2} - 5\Delta r$$

$$\Delta Y = 10\Delta r$$

$$\Delta r = 0.1\Delta Y$$

つぎに $Y=C+I+G$ に消費関数と、投資関数を代入します

$$Y = 30 + \frac{3}{5}(Y - T) + 20 - 2r + G$$

これを変化分の式にすると

$$\Delta Y = \frac{3}{5}(\Delta Y - \Delta T) - 2\Delta r + \Delta G$$

ここで、題意より $\Delta G = \Delta T = 30$ となるので

$$\Delta Y = \frac{3}{5}(\Delta Y - 30) - 2\Delta r + 30$$

$$\frac{2}{5}\Delta Y = 12 - 2\Delta r \quad \text{つぎに } \Delta r = 0.1\Delta Y \text{ より}$$

$$\frac{2}{5}\Delta Y = 12 - 0.2\Delta Y$$

$$0.4\Delta Y = 12 - 0.2\Delta Y$$

$$0.6\Delta Y = 12$$

$$\Delta Y = 20$$

2018 国家一般職_マクロ経済学

【No.38】市中銀行が、その預金残高に対して 10%を預金準備として保有し、残りを全て家計への貸出に回すものとする。また、家計の現金預金比率が 50%、ハイパワード・マネーが 480 兆円とする。いま、ハイパワード・マネーが一定 (480 兆円) の下で、現金預金比率が 80%に増加したとする。

このとき、マネーストックはいくら減少するか。ただし、市中銀行が、その預金残高に対して 10%を預金準備金として保有し、残りをすべて家計への貸出に回すことは変わらないものとする。

- 1 60 兆円
- 2 120 兆円
- 3 180 兆円
- 4 240 兆円
- 5 360 兆円

正答 4

マクロ p.58

貨幣乗数式に代入するだけです。

$$M = \frac{C/D+1}{C/D+R/D} H$$

M：マネーストック、C/D：現金預金比率、R/D：支払準備率、H：ハイパワード・マネー

最初のケース

$$M = \frac{0.5+1}{0.5+0.1} \times 480 = 1200$$

変化後

$$M = \frac{0.8+1}{0.8+0.1} \times 480 = 960$$

したがってマネーストックは 240 減少します。

【No.39】各家計は、ライフ・サイクル仮説に基づき行動し、生涯を通じて消費を平準化するものとする。各家計の稼得期が 45 年間、引退期が 30 年間であるものとし、稼得期の各年の所得が 350 万円、引退期の各年の所得は 0 であると仮定する。また、利子率は 0 とし、各家計は稼得期の最初に資産を持たず、遺産も残さないものとする。

全ての家計が上記の条件を満たすものとし、現在、稼得期にある家計の数、引退期にある家計の数がそれぞれ、60、20 であるとき、経済全体の平均貯蓄率はいくらか。

- 1 20%
- 2 30%
- 3 40%
- 4 50%
- 5 60%

正答 1

マクロ p.184

まず、各家計のそれぞれの期における消費額を求めましょう。

生涯所得は $350 \times 45 = 15750$ です。つぎに、各家計の生涯は $45 + 30 = 75$ 年ですから、家計は先ほど求めた 15750 円を 75 年にわたって支出します。したがって、毎期の消費額は $15750 \div 75 = 210$ 万円となります。

この国には家計が 80 あるので、一国全体の毎年の消費額は $210 \times 80 = 16800$ 円

この国の所得額の合計は $350 \times 60 = 21000$

したがって、貯蓄額は $21000 - 16800 = 4200$

平均貯蓄率（平均貯蓄性向）は $4200 \div 21000 = 0.2$ つまり 20% となります。

【No.40】ある小国の経済は変動相場制を採用しており、次のように示されているとする。

$$Y = C + I + CA$$

$$CA = 10 + 2e - 0.2Y$$

$$C = 10 + 0.8Y$$

$$I = \frac{1}{i}$$

$$M = 2Y + \frac{4}{i}$$

Y：国民所得、C：消費、I：投資、CA：経常収支、e：為替レート、i：国内利子率、M：貨幣供給量

国家間の資本移動が完全であり、世界利子率が 0.02 であるとする。さらに、 $M = 1,800$ とする。このとき為替レート e はいくらか。

- 1 100
- 2 110
- 3 115
- 4 120
- 5 125

正答 5

マクロ p.254

資本移動が完全なので、世界利子率 = 国内利子率となります。したがって $i = 0.02$

よって、 $I = \frac{1}{0.02} = 50$

また LM の式より

$$1800 = 2Y + \frac{4}{0.02}$$

$$1800 = 2Y + 200$$

2018 国家一般職_マクロ経済学

$$Y=800$$

つぎに $Y=C+I+CA$ に全てを代入して

$$800=10+0.8\times 800+50+10+2e-0.2\times 800$$

$$800=10+640+50+10+2e-160$$

$$2e=250$$

$$e=125$$